



冬季休業中の時間を有意義に活用しよう!!

冬季課外を充実させること

3年生は、共通テストに向けての冬季課外になります。共通テストを利用した受験と一般受験を控えている生徒もいます。受講する生徒は、お互いに頑張り、冬季課外を充実させて学力の向上に努めましょう。

本校では、四年制大学や公立短大を推薦入試等で合格した生徒も共通テストまで受験勉強を頑張るよう指導しています。自分の現在の学力を知る良い機会となるので、高得点を目指してください。努力することで自分に自信が持てる部分も出てきます。自分の実力を知った上で、それぞれの進学先で深く学問を探究し、自分の将来につながる土台を構築できるようにしましょう。

1・2年生は、基礎学力を維持・向上させるための冬季課外となるので、欠席することなく、意識を高く持って取り組んでいきましょう。学習の基礎の部分ができていないと、その上に積み上げる応用力が身に付きません。

課外授業の復習・予習のため家庭学習に力を入れ、学習をすることの習慣化をはかりましょう。次の点に注意して冬季休業中の時間を有効に使い、家庭学習に取り組みましょう。

○ 家庭学習の時間を増やすこと。

進路希望調査での学習時間を見てみると、大学進学や公務員を希望している割には学習時間が極端に少ない生徒が見受けられます。少なくとも最低2時間は学習の時間をつくり出すことを心掛けましょう。

○ 家庭学習の質も向上させること。

学習する場所の整理をして、集中できるように環境を整えましょう。学習時間を確保していく中で、ダラダラと学習するのではなく、効率化と質の向上をはかることを考えましょう。

○ 1・2年生のうちに、自分に合った学習方法を見つけ出すこと。

試行錯誤しながら自分に合った学習方法を見つけることが、学習に対する自信につながります。学習するという行動を起こさなければ、反省や工夫も生まれてきません。努力しましょう。

○ 大学進学・公務員を考えている生徒は、各教科の冬季課題を速やかに終わらせ、進路にあった学習時間をつくりだすこと。

受験勉強をする時間をつくり出すことが必要です。特に公務員を考えている生徒は、普段の授業では取り組まない判断推理や数的推理を数多く解いて、苦手な出題分野を克服していくことが大切です。

○ 読書をして、知識や教養を深めること。

読書をすることで、普段の授業では知ることのできない知識を蓄えることができます。特に小論文や作文の課題に出題されそうなテーマについて知識を深めることは、実際に作文や小論文を書いた時に、与えられたテーマに対して具体的に内容や構成を考えることができます。また、読書を通して、作者などの主張と自分の考えを比較することができ、自分の意見を見つけ出すことができます。

冬季休業中の時間を有意義に過ごすこと

進路の決まった3年生は、冬季休業中の時間をただ単にのんびりと過ごすのではなく、これからの親元を離れた生活を考えて、自立や自律ができるように生活習慣を見直していきましょう。特に就職する生徒は、社会人としてのマナーや常識を自分で調べ、実社会に出ても慌てることの無いようにしましょう。

進路について

本校では、進路希望調査の集計をみると、大学や短大への進学と専門学校への進学を考える生徒が全体の3分の2を占めます。専門学校については、令和2年度学校基本調査のまとめによると、高等学校等卒業者のうち、専門学校進学率は24.0%と4年連続微増で、過去最高値を更新しています。

○ 専門学校について

学校教育法では「職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図る」ことを目的とした学校を専修学校といい、その中で専門課程を置く専修学校が専門学校です。

大学を卒業した場合は「学士」、短期大学を卒業した場合は「短期大学士」といった学位が与えられます。専門学校を卒業して与えられる称号は次の通りです。

・「**専門士**」は、専門学校での学習成果を適切に評価する称号です。以下の3つの条件を満たして専門学校を卒業すると公的称号として付与されます。

- ① 修業年限2年以上
- ② 課程の修了に必要な総授業時数が1,700時間以上
- ③ 試験等による成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること

・「**高度専門士**」は、近年の産業や社会の進展を背景に、専門学校における教育内容の高度化や修業年数の長期化に伴って設けられた称号です。以下の要件を満たして専門学校を卒業すると公的称号として付与されます。

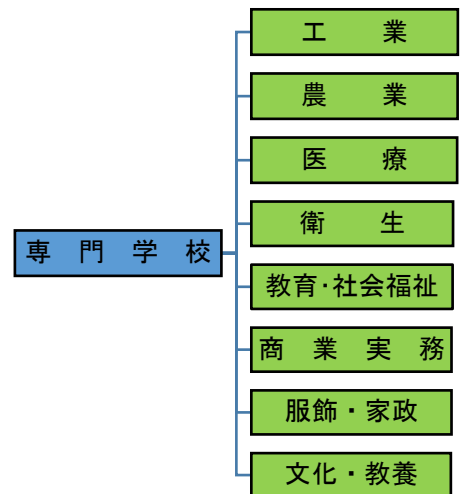
- ① 修業年限4年以上
- ② 修業年数の期間全体を通じた体系的な教育課程の編成が行われている
- ③ 課程の修了に必要な総授業時数が3,400時間以上
- ④ 試験等による成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること

「高度専門士」の称号を取得することは、日本国内においては大学卒業と同等の証明となります。福島県内では、令和3年3月現在で11校の専門学校が「**高度専門士**」の教育課程を組んでいます。主に作業療法士、理学療法士、1級自動車整備士などが相当します。

○ 専門学校への進学について

専門学校では、学習内容によって図のような8分野に分かれています。自分の興味や関心を持っている分野で、学科や取得できる資格、卒業後の職業など調べてみるとよいでしょう。

- ・工業分野…情報処理・情報工学・自動車整備・電気・建築・土木など
- ・農業分野…農業・フラワービジネス・造園・バイオテクノロジーなど
- ・医療分野…看護・理学療法・作業療法・歯科衛生・臨床検査など
- ・衛生分野…調理・栄養・製菓・製パン・栄養・美容・理容など
- ・教育社会福祉分野…保育・幼児教育・介護福祉・医療福祉など
- ・商業実務分野…経理・簿記・会計・医療事務・観光・ホテルなど
- ・服飾家政分野…和裁・スタイリスト・パタンナー・アパレルなど
- ・文化教養分野…デザイン・音楽・放送技術・動物・公務員など



専門学校を進学先として選択の一つにする場合に、志望校を選ぶ際に注意してもらいたいことは、

- ・インターネットで調べて、検索順位上位の専門学校を安易に志望校としないこと。
- ・オープンキャンパス等での募集担当者の話を聞き、他校との比較検討をしまいまま、志望校としないこと。
- ・専門学校は、資格や技術の取得が中心となってくるので、専門学校卒業後の仕事についても考慮して、志望校を決定すること。

また、専門学校を比較する際には、下記の点で検討しましょう。

- ・国家試験の合格状況…国家試験受験者数も確認しましょう。
- ・カリキュラム（教育課程）の詳細…自分のやってみたい事や就きたい職業について学べる事を確認しましょう。
- ・就職先情報の公開…学校卒業後、どのような企業に就職しているかを確認しましょう。
- ・学費…入学金や授業料、教材費などをよく確認し、保護者とよく相談しましょう。